

施設の今後のあり方

**存続
(利活用)**

理由

- ①平成13年の開園以来、638万人が利用（過去5年平均30万人）しており、ニーズ調査（R2実施）で、約80%から存続を求められているため。
- ②利用者ニーズに沿った新コンセプトや新愛称（るるパーク）を設定したことで、より一層親しみやすい施設となり幅広い来園者の増加が見込まれるため。

目指すべき
施設像

自然の中で憩い、遊び、健康になり、学べる。
楽しさ満載の公園

- ①県民等に永らく愛され親しまれる公園
②四季折々の自然体験や遊びを通じて喜びを感じられる場所
③「楽しめる」「くつろげる」「遊べる」「健康になれる」「学べる」公園

目指すべき
利用者像

- ①ファミリー層（入園者の中心。土日利用者の大半）
②シニア層（平日利用者の大半。健康ニーズの高まり）
③若年層（近年増加傾向。SNS映え、アウトドア需要）
④団体（企業や学校、観光ツアー客等グループ利用）

定量的目標
達成指標

①年間利用者数

【公園】R3：31万人から段階的に増加。

R5～R7：33万人

R8～R12：35万人

【研修館】R3：30,500人から段階的に増加。

R5～R12：31,500人

②利用者満足度

【公園】R3：4.0から段階的に増加。

R5～R7：4.2

R8～R12：4.5

【研修館】R3～R7：4.7 高水準を維持。

R8～R12：4.8

定性的目標
達成指標

- ①四季折々の花が楽しめる植栽の充実
②アウトドア志向の高まりへの対応
③子ども向け施設の充実
④食を楽しめる取組の充実
⑤自然観察及びアウトドア等に関する講座の実施・充実

主な課題と解決策

開園から23年が経過しており、人口減少社会の中での新規ニーズ対応や補修が必要。飲食の充実も近年の課題。

【課題】

- ①人口減少・少子高齢化に関する課題
②施設管理に関する課題（公園）
③施設管理に関する課題（研修館）
④新たなニーズへの対応に関する課題
⑤飲食や物販の充実に関する課題

【解決策】

- ①若者やシニアなど幅広い年齢層の利用増加を図る。新規来園者獲得に向けた広報強化。
②計画的な施設等補修と新コンセプトに基づいた運営。
③ニーズや季節に合わせた研修内容のリニューアル。企業・団体への働きかけで貸館利用促進。
④自然体験の充実と健康ニーズへの対応。初心者向けアウトドア教室の充実。
⑤キャンプ用食材提供及びキッチンカーでの食事提供や地元自治体と連携したマルシェなどの食のイベントの開催。